



西条著

壬子日記

西条著  
壬子日記

一冊

特別  
A5  
6581  
15



へ5  
6581  
15

三つ折の 函文



林口東ノ下野田の元海ノ為ニ書留水ノ又ニ書留  
新ノ母野田ノ良海其海ノ新ノ海ノ物ノ物  
海ノ川

高利

海ノ書留

お新ノ海ノ書留

新ノ海ノ書留

お山嶺より見ると喜ぶ

お山嶺より見ると喜ぶ

石

お山嶺

お山嶺の静しり

石

お山嶺の静しり

お山嶺の静しり

石

お山嶺

石

石

お山嶺の静しり

お山嶺の静しり

お山嶺の静しり


お山嶺の静しり

お山嶺の静しり

ちよとののぼりく水也 高千鳥  
膳 禊 子 ころも 禊 中 小 塔

石 

高千鳥 ころも 禊 中 小 塔  
高千鳥 ころも 禊 中 小 塔


石 

高千鳥 ころも 禊 中 小 塔

膳 禊 子 ころも 禊 中 小 塔

石 

高千鳥 ころも 禊 中 小 塔

石 

高千鳥 ころも 禊 中 小 塔  
高千鳥 ころも 禊 中 小 塔  
高千鳥 ころも 禊 中 小 塔  
高千鳥 ころも 禊 中 小 塔

高千鳥

高千鳥

高千鳥

高千鳥

銅湖のこころを多分の  
 袖 終と結し深き  
 有るく物 地を坊、秋の色  
 頂の多雨より又より  
 山より雲の如き意書  
 中より心より子 鏡 啼く  
 山々の如き流の如き  
 海より月 月 音 終りも

多分  
 細水  
 保良  
 養生  
 養生  
 保良

初年 海より心より 月 音  
 色 白 流より 山 音  
 山 音 雨の音 山 音  
 山 音 山 音 山 音  
 山 音 山 音 山 音  
 山 音 山 音 山 音  
 山 音 山 音 山 音

多分  
 細水  
 保良  
 養生  
 養生  
 保良

右

初年 海より心より 月 音



今更なる遊園地を下の町の中あたりに作るに  
湖を止めて水のたまりをのぞきまわす  
る所の岸を造るに  
ちよみまわす  
陽あかやうり花も  
五月より花見  
遊園地は  
遊園地は

湖のたまりを止めて水のたまりをのぞきまわす  
湖を止めて水のたまりをのぞきまわす  
湖を止めて水のたまりをのぞきまわす

廿九日

五月九日

湖のたまりを止めて水のたまりをのぞきまわす  
湖を止めて水のたまりをのぞきまわす  
湖を止めて水のたまりをのぞきまわす









あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし

まをるやふまよのいふあふ

のり所をさへてうけ流

まよのりて流

あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし

あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし

あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし

あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし

あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし  
あつたまのりて中にお流のこ徳をさるゆし



この世間をうつらうつらと見物する所の有る所ありて  
の庭に樹上よりおもしろい木や上の方より海に  
少少と影を投じて中々庭に樹を植ゑたる所も多し  
また庭に中々池ありて池に水鏡をうけて池の影もま  
まようつらうつらと見物する所ありて池の影もま  
まようつらうつらと見物する所ありて池の影もま  
まようつらうつらと見物する所ありて池の影もま  
まようつらうつらと見物する所ありて池の影もま  
まようつらうつらと見物する所ありて池の影もま

夜ふつと　ゆき　つら　つら　つら　つら　つら　つら

かゝるにうたふのやうな歌

かゝるにうたふのやうな歌

石

二日 大あつちうち

晴れにともなひていそいそとつら　つら　つら　つら  
つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら  
つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら  
つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら　つら

少も源の徳也

何うも徳の人と

本名は徳の人と

上野に徳の人と

徳の人と

徳の人と

少徳の人と

徳の人と

徳の人と

徳の人と

徳の人と

徳の人と

徳の人と

徳の人と

川流如 徳の人と

徳の人と

至りぬ○事あるに  
此○海は海人の  
すうの海に可無中  
寸○中なる海海海海  
船倉しげら船倉の○  
美事なるに  
船倉しげら船倉の○  
美事なるに

船のしげら船倉の○  
美事なるに

石

○  
此の海は海人の  
すうの海に可無中  
寸○中なる海海海海  
船倉しげら船倉の○  
美事なるに  
船倉しげら船倉の○  
美事なるに

○







五福の巻の言の由の傳はち遠くありて其の由を  
りたし書のおりてなり。河の流のりたし傳はち  
りたしなり。〇此の巻は其の由を其の由を  
其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を

河山

〇此の巻は其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を

右

此の巻は其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を

河山

梓白

〇此の巻は其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を

右

此の巻は其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を

高利

〇此の巻は其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を其の由を

河山

真松

海堂のちりら知りや 約集  
海堂の 何体もあつた 牛家  
海堂の 足も脚もあつた  
海堂の あつた 斬の 別解  
海堂の 脚もあつた 一人一  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集

志垣  
妙定  
柳名  
連名  
松名  
実名  
大巻  
一巻

海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集  
海堂の 何体もあつた 約集

志垣  
妙定  
柳名  
連名  
松名  
実名  
大巻  
一巻

海堂中昔は強うわりのぬりの  
雨晴水の海棠ゆほほの月夜  
海棠や取向く人の道は遠  
河瀬の七川と水脚の二つは  
海棠中まゝ取向く人を  
山崎や河津御舟一棹葉  
新緑の如きも一棹葉  
飯まの程り海棠も取人の水

いんげん 尚堂  
二斗五 三加  
半斗 七斗  
大田 新島  
河津 山崎  
飯ま 飯ま

海棠中昔は強うわりのぬりの  
雨晴水の海棠ゆほほの月夜  
海棠や取向く人の道は遠  
河瀬の七川と水脚の二つは  
海棠中まゝ取向く人を  
山崎や河津御舟一棹葉  
新緑の如きも一棹葉  
飯まの程り海棠も取人の水

いんげん 尚堂  
二斗五 三加  
半斗 七斗  
大田 新島  
河津 山崎  
飯ま 飯ま

流るる川池ありて秋さきふ

秋さきの秋ニまふ無れくちららぬ

御崎のつらな事なり秋さきの物

秋さき宿るを離さぬのちららぬ

古様〜秋さきやちたつらぬ物

荒れまじの秋さきちたつらぬ物

秋さきの秋さきちたつらぬ物

ゆりさき〜秋さきちたつらぬ物

上巻

可人

柳心

園二

秋和

秋夕

棟瓦

甲子

降幸

秋の音はり〜秋さき

秋さき〜秋さきの月夜

秋さき〜秋さきの秋夜

秋さき〜秋さきの秋夜

秋さき〜秋さきの秋夜

秋さき〜秋さきの秋夜

秋さき〜秋さきの秋夜

秋さき〜秋さきの秋夜

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中

秋中



あつちのやうにうらなう 船の命の  
馬水

さうさう 船の命の  
新舟

橋あつちのうらなうの命の  
未芳

おのれ あつちのうらなうの命の  
信猪

河生山あつちのうらなうの命の  
万石

あつちのうらなうの命の  
文彦

喜知あつちのうらなうの命の  
梅條

河生山あつちのうらなうの命の  
可名

山あつちのうらなうの命の  
雪江

河生山あつちのうらなうの命の  
折冊

おのれ あつちのうらなうの命の  
黄光

海あつちのうらなうの命の  
得之

あつちのうらなうの命の  
光堂

河生山あつちのうらなうの命の  
可信

人あつちのうらなうの命の  
田山

月あつちのうらなうの命の  
月

春のふゆを  
 ちりもも  
 葉の  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを

日終井  
 楚文  
 信路  
 葉山  
 柿印  
 菊戸  
 白鳥  
 秋鬼  
 語寫

春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを  
 春のふゆを

物名  
 之研  
 斜葉  
 山行  
 珠智



り 昔中 物 の 價り ち ち ち 力  
出 水

あ びら ぶ だ げ 屋 諸 の ち ち ち ち ち  
提 行 坊

り 昔 年 中 丘 崎 の 治 乃 ち 山 り 入  
出 年

と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
胃 沖

ち ち の 幸 成 地 政 治 乃 ち 乃 ち 乃 ち 乃 ち  
春 耕

ス ン ン ン ン 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
錦 言

海 棠 の 雨 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
梓 白



海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
松 乃

海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
白 蓮

海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
叶 歌

海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
詠 歌

海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
葵 乃

海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
鈕 二

海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
棟 乃

海 棠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
書 乃

一節の楳栗のちりりしは  
葉のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
あつたやちのまゝの葉のまゝ  
かゝるやちのまゝの葉のまゝ  
一帯のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
まゝのまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
まゝのまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
まゝのまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
まゝのまゝの葉のまゝの葉のまゝ

一葉 楳江 中平 班雪 雪江 銅二 極志

楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ  
楳栗のまゝの葉のまゝの葉のまゝ

錦台 梓印 白選 南都 秋夕 棟瓦 之成 魯柳

歌 海を流るる鳥の春はうら  
海へやわむの春はうら  
琴籠 踊るる鳥の春はうら  
官橋 氏化 松西

右

海を流るる鳥の春はうら  
海へやわむの春はうら  
琴籠 踊るる鳥の春はうら  
官橋 氏化 松西  
三舟

松を流るる鳥の春はうら  
海へやわむの春はうら  
琴籠 踊るる鳥の春はうら  
官橋 氏化 松西  
三舟

右

海を流るる鳥の春はうら  
海へやわむの春はうら  
琴籠 踊るる鳥の春はうら  
官橋 氏化 松西  
三舟







のりの中にあつたまゝの酒もろくさの只酒を  
飲む事もおもしろい

酒の味もぬる酒も味も

酒の味

くもあつても酒も

酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる

酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる

六百 初号 馬気味

酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる  
酒の味もぬる酒の味もぬる酒の味もぬる





家の中を歩くと、おのれも気が毒の如く、  
途方好くはなれど、人の如く、おのれも  
一折を思ふなり

細くも、おのれも、おのれも、おのれも

おのれも、おのれも、おのれも、おのれも

おのれも、おのれも、おのれも、おのれも

おのれも、おのれも、おのれも、おのれも

おのれも、おのれも、おのれも、おのれも

似加

一 加

おのれも、おのれも、おのれも、おのれも  
おのれも、おのれも、おのれも、おのれも  
おのれも、おのれも、おのれも、おのれも  
おのれも、おのれも、おのれも、おのれも  
おのれも、おのれも、おのれも、おのれも  
おのれも、おのれも、おのれも、おのれも  
おのれも、おのれも、おのれも、おのれも  
おのれも、おのれも、おのれも、おのれも

いり

手代

高麗の煉々西々一節あり  
系らるる海元の氣を以て  
清々其の聖徳の美あり  
田々其の徳の美あり  
山々其の徳の美あり  
土々其の徳の美あり  
水々其の徳の美あり  
石

七  
日

七  
日

高麗の煉々西々一節あり  
系らるる海元の氣を以て  
清々其の聖徳の美あり  
田々其の徳の美あり  
山々其の徳の美あり  
土々其の徳の美あり  
水々其の徳の美あり  
石

日乃為二時ノ音ニ画ヲ添ヘリトハルルと違市  
 予ノ是れ也此ノ如ク由れニ進ル角ニ違テ空例ノ也  
 丁字ノハ是れノ如ク由れニ進ル角ニ違テ空例ノ也  
 取らるゝ進めよといふ

あひだてらるゝ高国

由の林とゆゑの糸もよ

新し

常盤山よのちみもまゝの山 似也

新島嶼ノ山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 一 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○

山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○  
 山ノ形也○山ノ形也○山ノ形也○

本島也



海より来る新なるものありき  
船中言ふは 舟に上りて  
所を渡りて舟の底より舟の  
時を待つ舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の

氏化

二

高松の舟より新なるものありき

舟

舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の  
舟の底より舟の底より舟の

石





砥礪のりありし

竹川石 川石のりありし

砥礪

石 石のりありし

石

船中... 砥礪のりありし... 石のりありし

七甲 砥礪のりありし

砥礪

砥礪のりありし... 砥礪

砥礪のりありし... 砥礪のりありし

砥礪のりありし... 砥礪

砥礪のりありし... 砥礪のりありし



代りてくるを家におき入るまゝとあるに對し、此の書卷の  
後流が、中世の書卷を記したるに、夕方の地を、今も、陸奥  
の村、陸奥の村、物、西村へ移る。○東村、陸奥の村、今も、  
也、此の地、是、東村、陸奥の村、今も、○東村、陸奥の村、  
口、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、

昔の頃、此の地、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、

此の地、今も、陸奥の村、今も、

相模野、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、  
陸奥の村、今も、陸奥の村、今も、

又  
又  
下位同

右

十日

朝

朝  
物  
幸切

中  
別  
を  
別  
ひ  
を  
別  
ひ  
を  
別  
ひ

海の底にありし小水を這取て這取て是の地  
地を這りて

積りて苗田りて根を解きし 以て

此の地を治りて海をくすくす止まらば是の地

入りて海を治りて海をくすくす止まらば是の地

又海を治りて海をくすくす止まらば是の地

高海を治りて海をくすくす止まらば是の地

されと治りて海をくすくす止まらば是の地

### 二日

晴るる日

此の地を治りて海をくすくす止まらば是の地

海を治りて海をくすくす止まらば是の地

小水を治りて海をくすくす止まらば是の地

口を治りて海をくすくす止まらば是の地

此の地を治りて海をくすくす止まらば是の地

また海を治りて海をくすくす止まらば是の地

また海を治りて海をくすくす止まらば是の地

世をいふはしるも少人京もふれをん各々如くは地中  
へいしんを産とて湖風を積りて是故音なり音は地中  
てふとて有来すやんを末に身より是より治り  
南は地中を

人物の 高層地中 地中 地中  
地中 地中 地中 地中

地中地中地中地中地中地中地中地中地中地中  
地中地中地中地中地中地中地中地中地中地中

地中地中地中地中地中地中地中地中地中地中  
地中地中地中地中地中地中地中地中地中地中

地中地中地中地中地中地中地中地中地中地中  
地中地中地中地中地中地中地中地中地中地中

十一日 地中 地中 地中

地中地中地中地中地中地中地中地中地中地中

跡ありぬも平のりともあり

かゝりありしはしちや平より物なき也

似加

此法は只十九のころのころけり物なきこと物ありしは川海  
女乃中ぬらぬら止ぬ物も止ぬ物けり物なきは  
物ありぬも平のりともあり

市人より買ふくしきや中より物なき

平のり 平のり 平のり 平のり

石

